

事務事業庁内検証会議における改善報告
(令和元年度検証事業)

No.	担当部署	最終評価	事務事業名	改善効果額（千円）		【参考】 その他の効果 (計算可能なもの)
				改善による減額	サービス向上に伴う増額	
1	総合政策部 政策推進課	B	結婚支援事業	2,790		
2	保健福祉部 健康政策課	A	健康長寿都市推進事業	1,000		
3	保健福祉部 高齢者幸福課	A	敬老費	13,288		
4	産業振興部 農政課	B	農産物流通促進事業			
5	産業振興部 商工観光課	—	勤労青少年ホーム運営事業			
6	教育部 教育総務課	A	奨学金貸付事業			
7	教育部 生涯学習課	A	公民館事業費			
8	教育部 文化振興課	A	文化振興事業	1,577		
			合計	18,655		

5 勤労青少年ホーム運営事業は、予算額が減少となり、行政評価の調査対象外事業となったため最終評価の欄は空欄

**事務事業庁内検証会議における改善報告
(令和元年度検証事業)**

事務事業名 (主管課)	① 結婚支援事業 (政策推進課)	
(事業概要) 少子化対策、地域活性化、定住促進を図るため、男女の出会いから婚姻に至るまでの支援として「結婚支援事業」を実施している。事業の一つとして、結婚に関心のある独身男女の引き合わせから成婚まで支援する「婚活マスター」を認定している。		
令和元年度事務事業庁内検証会議での検証者の意見		
改善した具体的な内容		成果・実績
① 商工会議所の婚活イベントなど各団体との連携について		
商工会議所へ交付した補助金のなかから2割削減を実施した。		補助金の削減額2,790千円
② 婚活マスターの養成、スキルアップについて		
市広報紙、SNSでの情報発信に加え婚活マスターの知人で結婚支援に関心のある方を紹介してもらえよう依頼した。		令和2年度婚活マスターの募集期間中
③ とちぎ結婚支援センターの周知について		
市ホームページ、市広報紙等により広く周知を図っている。また婚活マスターの協力を得ながら周知を図っている。		とちぎ結婚支援センター登録者数 51名 (大田原市民、8月31日時点)

**事務事業庁内検証会議における改善報告
(令和元年度検証事業)**

事務事業名 (主管課)	② 健康長寿都市推進事業 (健康政策課)	
(事業概要) 大田原市民がすこやかに長生きするための条例に基づき、平成10年5月に大田原市健康長寿都市推進委員会を設立し、健康セミナー、体力づくり実技研修会、メディカル講座、健幸ハイキング等健康づくりに関する事業を実施している。		
令和元年度事務事業庁内検証会議での検証者の意見		
改善した具体的な内容		成果・実績
① 健康セミナーの内容や講師の見直しについて		
健康セミナーの講師委託料について、健康長寿都市推進委員会役員会に諮り、見直しを行った。	当初予定の削減額500千円	※新型コロナウイルス感染症の影響により健康セミナーは全て中止
② 健康セミナーや体力づくり実技研修会の周知方法について		
折込みチラシを廃止し、広報おたわら、市ホームページ、よいちメール等で事業を周知する。	当初予定の削減額500千円	※新型コロナウイルス感染症の影響により全ての事業を中止

**事務事業庁内検証会議における改善報告
(令和元年度検証事業)**

事務事業名 (主管課)	③ 敬老費 (高齢者幸福課)	
(事業概要) 敬老会事業費補助金として、自治会、養護老人ホーム等の団体が敬老会を主催する場合に、主催団体に対し補助金を交付している。 敬老祝金として、80歳、87歳(数え米寿)、100歳、101歳以上の方に祝金、記念品を贈呈している。		
令和元年度事務事業庁内検証会議での検証者の意見		
改善した具体的な内容		成果・実績
① 敬老会補助金の減額について		
補助金の対象者1人当たりの交付額を1,000円減額するとともに補助金の対象者の年齢を75歳から80歳に段階的に引き上げた。		補助金の削減額9,543千円
② 敬老祝金の減額について		
87歳の方への記念品配布を廃止し、80歳の方への敬老祝金の額を1万円から5千円に引き下げた。		記念品の廃止による削減額 1,380千円 敬老祝金の引き下げによる削減額 2,365千円

**事務事業庁内検証会議における改善報告
(令和元年度検証事業)**

事務事業名 (主管課)	④ 農産物流通促進事業(農政課)	
(事業概要) 大田原市内の高品質で安心な農産物の新たな販路開拓などを行う「大田原市農産物ブランド化促進協議会」、「発酵のまちづくり推進協議会」、「八溝山周辺地域定住自立圏産業観光部会事業」等の活動を支援する事業を実施している。		
令和元年度事務事業庁内検証会議での検証者の意見		
改善した具体的な内容		成果・実績
① 商談会に参加している団体の売上情報の検証について		
過去にイベントに出店した11団体に対し売上情報の確認を行った。	売上増を実感していると回答した団体は5団体であった。なお、商談会へ参加したことで、取引につながる例も多く、売り上げの伸びにもつながっているようである。また、その場で取引につながらなくても、次の販路開拓に向けて情報交換を行い、ネットワークを広げることができている。	
② 商談会へ新たな団体の参加を促進することについて		
協議会の具体的活動例を新規就農者等に情報提供を行い協議会への参加を呼び掛けた。	新規参加団体0(令和2年8月末時点)	
③ 農産物ブランド化促進協議会とブランド推進協議会の連携について		
農産物ブランド化促進協議会の会員に対し、販路拡大の一助となるよう「大田原ブランド」の認定制度の周知を図った。	申請者0(令和2年8月末時点)	
④ 農産物ブランド化促進協議会の運営、企画を団体に任せることについて		
市補助金の削減に伴い、出店に係る費用について会員負担を求め、会員が自主的に事業を行うルールづくりを行った。また、次年度以降の会員継続の意思確認を行い、年会費を設定し、活動意欲のある個人・団体による会員構成とした。	年会費を1団体当たり5,000円とし、会員は16団体となった。	

**事務事業庁内検証会議における改善報告
(令和元年度検証事業)**

事務事業名 (主管課)	⑤ 勤労青少年ホーム運営事業 (商工観光課)	
(事業概要) 40歳未満の勤労青少年の福祉の増進と健全な育成を図るため、勤労青少年の余暇活動として教養講座やスポーツ教室を中心に事業を実施している。		
令和元年度事務事業庁内検証会議での検証者の意見		
改善した具体的な内容		成果・実績
① 講座内容の見直しについて		
平均利用人数が少ない講座を廃止し、また年3回開催している講座を中心に開催回数(コース)の見直しを行い、一部は開催回数を減らし受講の集約を図った。		令和2年度当初計画 13講座25コース (前年度比1講座4コース減) ※新型コロナウイルス感染症の影響により、講座開催回数、利用者とも大幅な減少となる見込み

**事務事業庁内検証会議における改善報告
(令和元年度検証事業)**

事務事業名 (主管課)	⑥ 奨学金貸付事業 (教育総務課)		
(事業概要) 教育の機会均等の趣旨に基づき、経済的な理由によって修学が困難な学生に対し、学資を貸与することで、修学の機会を提供するとともに、人材の育成を図る事業を実施している。			
令和元年度事務事業庁内検証会議での検証者の意見			
改善した具体的な内容		成果・実績	
① 奨学生の早期募集について			
12月に市広報及び市ホームページで次年度奨学生の募集を周知した。 また、市内中学校及び県北地区高等学校に奨学金のパンフレットを配布した。		令和2年度奨学生の応募が、前年比3人増(17名)となった。	

**事務事業庁内検証会議における改善報告
(令和元年度検証事業)**

事務事業名 (主管課)	⑦ 公民館事業費 (生涯学習課)		
(事業概要) 各地区で地区文化祭の開催、地域ぐるみによる青少年健全育成事業(教育講演会)、グラウンド・ゴルフ大会、ソフトバレーボール大会などスポーツ・レクリエーション大会の開催などの公民館事業を実施している。			
令和元年度事務事業庁内検証会議での検証者の意見			
改善した具体的な内容		成果・実績	
① 大田原東地区、大田原西地区のソフトボール大会の合同開催について			
令和2年度から大田原東地区、大田原西地区のソフトボール大会を合同で実施する。		合同開催の準備を進めてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により大会を中止した。	
② 佐久山地区の青少年健全育成事業について			
地域ぐるみによる青少年健全育成事業について地区内唯一の学校となる佐久山小学校との連携を協議し実施する。		令和3年2月の実施に向け、佐久山地区公民館と佐久山小学校とで内容等の協議を行っている。	

**事務事業庁内検証会議における改善報告
(令和元年度検証事業)**

事務事業名 (主管課)	⑧ 文化振興事業 (文化振興課)	
(事業概要) 市民が文化・芸術活動に参加したり、質の高い文化・芸術にふれたりする機会を提供するため、実行委員会を組織し各種事業を実施している。また、文化協会等関連団体の育成にも取り組んでいる。		
令和元年度事務事業庁内検証会議での検証者の意見		
改善した具体的な内容		成果・実績
① 各文化団体への補助金の削減について		
各団体への補助金を20%削減した。		7団体の削減額1,577千円
② 那須野が原国際芸術シンポジウム及びアーティスト・イン・レジデンスについて		
那須野が原国際芸術シンポジウム、アーティスト・イン・レジデンスを隔年で開催する。		令和2年度に那須野が原国際芸術シンポジウムを開催し、以降隔年で開催する。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度中止